

# 道徳教育は、実践を目ざすべき

筑波大学附属小学校 道徳教育研究部 山田 誠

## 1. 道徳的心情は、行動となって現れる。

道徳的心情—「一般的に考えられる道徳的心情とは、道徳的価値を望ましいものとして受け取り、善を行うことを喜び、悪をなすことを憎む感情のことである。」

『道徳授業の基礎辞典』（日本道徳基礎教育学会編、光文書院）

「道徳の時間は子どもの心に働きかけるものであり、子どもの行為の変容をねらうものではない」という主張がある。

星陵高校山下監督の言葉

「心が変われば行動が変わる

行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる

人格が変われば運命が変わる」

## 2. 道徳的表現力とは行為を伴ってこそ

道徳における表現力は、子どもが書いた文章や、子どもが発表した意見だけでは測れない。

例—道徳の時間にすばらしい意見を言う子が、学校生活において実践できない。

逆に、道徳の時間に発言しない子が、学校生活において道徳的価値を実践している。どちらが道徳性の高い子と言えるであろうか。

## 3. 親切な心と親切な行為

道徳では、どういう心で老人に席を譲ったかを重視

立っているのが辛い人にとっては、どんな理由にせよ、席を譲ってくれる人は親切

相手に喜ばれることによって、親切の価値に気づく

(中越地震で400万円寄付した歌舞伎町のホストの例)

## 4. 実践の難しさ

道林 (中国の禅僧)

「悪いことをせずによいことをする。そして、よいことは進んです。この3つがお釈迦様の教えだ。」

「3才の童でも知っているけれど、80才の翁でも行うことができない。」

道徳の学習内容は3才の子どもでも知っているが、大人でもなかなか実践できない。